

人材育成講座 iPad の使い方学ぶ

町では、ICTの活用・普及のため、人材育成講座「タブレット教室」を開催しました。講座は全5回で、講座を通じて、タブレットの基礎から応用まで学び、デジタルが苦手な方（高齢者や障害者など）に基本操作を教えられるレベルを目指します。

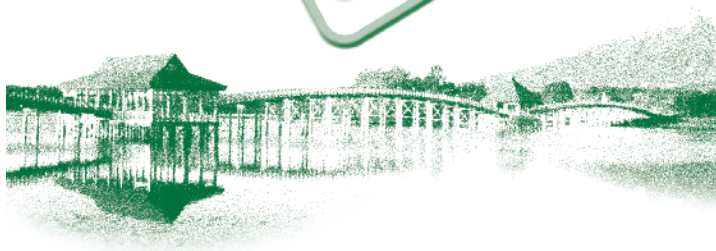
講師は鶴田小学校・中学校で、タブレット学習のサポーターとしても活動している高森三樹さんです。

受講した人に受講理由を聞くと「趣味に活かせると思い受講した」や「子どもにタブレットをもらい、基礎から学びたいと思い受講した」と話していました。

講師の高森さんは「初心者の方が多いので、基本的なことを丁寧に教えるようにしています。受講者の疑問に思ったことに随時答えていくように心がけています」と話していました。



△タブレットの操作を学ぶ受講生たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

見守り活動のため防犯ベストを寄贈

青い森信用金庫鶴田支店の利用者で組織する「信友会」（川村武悦会長）は、12月13日（月）鶴田小学校（片山好弘校長）に防犯ベスト30着を寄贈しました。

同会は新型コロナウイルスの影響で会員同士の交流行事が行えず、会費の一部を使って地域貢献活動を行うことを決め、小学校の要望に合わせて今回防犯ベストを寄贈しました。

この日は川村会長と同支店の北谷誠支店長が同校を訪問。防犯ベストを受け取った片山校長は「有効に活用し、子どもたちの安心安全に役立てたい」と感謝を述べていました。

川村会長は「子どもは地域の宝なので、のびのびと生活してほしい。これからも協力していきたい」と話していました。

寄贈された防犯ベストは児童の登下校を見守る地域住民に利用してもらう予定です。



△防犯ベストを受け取る片山校長（右）と手渡す川村会長（中央）と北谷支店長

籠いっぱいのリンゴを持って登校

児童が学校給食用のリンゴを家庭から持ち寄る「リンゴ籠運動」が12月20日（月）、鶴田小学校で行われました。雪がちらつく中、児童たちはリンゴを入れた籠を持って登校。この日一日で、8箱分（約160kg）のリンゴが集まりました。

当町では、食育や地産地消を推進するため、毎年、地域の生産者からリンゴを提供してもらい、11月から3月まで小中学校の学校給食で地元のリンゴが提供されています。

山本真規子教育長は、「今年はりんごの収穫量が少ないと聞いているので、寄付してもらって本当にありがたいです。子どもたちには生産者の苦労も理解して味わってもらいたい」と話していました。



△雪がちらつく中、りんごを持って登校する児童

町出身者が保育施設へマスクを寄贈

11月、町出身者で現在は名古屋市在住の和田貴子さん（旧姓：瓜田）が子どもたちに使ってもらいたいと、手作り布マスク700枚を寄贈しました。

和田さんは尾原地区出身で、小学校3年生の頃に町を離れたそうです。今回手作りマスクを寄贈してくれた理由について、和田さんは「自分はもちろん、祖父母や父親の生活を鶴田町に温かく支えていただいた感謝の思いから、コロナ禍で大変な思いをされている鶴田町民の皆さまへ微力ながらお手伝いできればと思い、今回マスクを寄贈いたしました」と話していました。

手作り布マスクは管内の保育施設7ヶ所に送られ、子どもたち1人あたり2枚が配られました。



和田 貴子さん



△贈られたマスクを使用しているひなづる幼稚園の園児たち



西北地域で社会教育のネットワークを利用した事業に参加してきました。五所川原を拠点に活動している「NP0 法人 子どもネットワーク・すてっぴ」のメンバーや各地域で精力的に活動している方たちが、地域の子供たちが冬に楽しめる催しものを開催しようと2か月前から準備を重ね、12/19に「楽しんじゃおう！ちょっと早いクリスマス」というイベントを開催しました。鶴田町からも参加していただいたご家族もいたようでうれしかったです。久しぶりに子供たちと遊んだのですが、全身が筋肉痛でした。参加してくれた子供たちの笑顔がとても印象的で、僕自身の日々の活動の活力になりました。鶴田にもたくさんの笑顔を増やせるよう頑張っていこうと思います。



△スタッフとして参加した川口さん

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。